

## 9 重複障害のある児童生徒のための総合的な学習の時間の実際研究

### 9-1 「重複障害のある児童生徒のための総合的な学習の時間の実際研究」

#### －個別の指導計画の目標設定から行う拓北タイムの授業改善－

北海道拓北養護学校 越田 淳

教育課程・時間割

- ・子どもが選ぶ授業を用意する発想
- ・それを支える「学年チーフ」や「全校指導担当者」などのシステム整備
- ・地域の人材や社会資源を活用した授業づくり

#### はじめに

本校は、平成12年4月に開校した北海道立の肢体不自由養護学校で、児童生徒数は小学部65名、中学部41名、高等部24名の計130名（訪問教育6名）である。「共有・共感・共育」を学校経営の基本理念とし、「生きる力を育てる」を学校の教育目標としている。開校以来、「一人一人を大切に作る」ことを目指し、教育課程の類型化を行わずに、一人一人の多様な教育課程を編制し、一人一人の時間割を作成している。（ただし、本研究の目的上、便宜的に指導要録の様式から、普通校に準ずる教育課程、知的障害養護学校の教育課程、自立活動を主とした教育課程に区分する。）

重複障害のある児童生徒の教育課程については、個別の指導計画に基づき作成し、適切な学習集団を編制している。具体的には、教師と1対1のマイタイム、学年や学部を中心として形成したグループタイム、全校的に行う全校タイムに分けている。

マイタイムでは、一人一人の教育的ニーズに応じて、教科学習の補完や、身体の動きやコミュニケーション、認知面などの自立活動を行うことが多い。グループタイムでは、学習集団を固定化せず、各教科や領域・教科を合わせた指導、自立活動の学習ごとに、一人一人の目標に応じて柔軟なグループの編制を心がけている。全校タイムでは特別活動と総合的な学習の時間「拓北タイム」を行っている。

なお、本校では重複障害のある児童生徒の教育課程の編成にあたって、次のことを重視している。

- ・個別の指導計画に基づいて、一人一人に応じた

#### 1 研究の目的

拓北タイムの実践の成果をまとめるとともに、課題を明らかにして授業改善に取りくむ。

#### 2 研究の方法

平成16年度は、過去5年の実践から拓北タイムの成果をまとめるとともに、全校児童生徒の個別の指導計画の目標を集約、分析することによって、拓北タイムの課題を明らかにする。平成17年度は、その課題から、個別の指導計画の目標設定の改善とともに、拓北タイムの授業改善に取り組む。

#### 3 拓北タイムの取り組み

##### (1) ねらい

盲学校、聾学校及び養護学校小学部・中学部学習指導要領の総合的な学習の時間のねらいから、知的障害養護学校の教育課程の児童生徒が38%、自立活動を主とする教育課程の児童生徒が57%という本校の状況を考慮し、①興味・関心のある活動を選び、楽しんで参加する、②問題意識を持って、考えたりしながら活動に取りくむ、の2点を拓北タイムのねらいとして置き換えている。小学部1,2年生については、生活科としておさえている。

なお、拓北タイム以外に児童生徒の個々の教育的ニーズに応じて、総合的な学習の時間に取りくんでいるケースもある。

## (2) 対象児童生徒及び時数

全校の児童生徒が、年間12回水曜日の2・3校時(10:00~11:15)に一斉に行っている。また、拓北タイムのオリエンテーションとして年間2回、1年間のまとめとして年間1回の事後学習を行っている。

その他、拓北タイムの前日には、各学年で1時間、CMビデオを視聴している。事前事後、CMビデオを含めて、計42時間を拓北タイムとして行っている。

## (3) 授業のシステム

毎回、4つの学習(番組と呼んでいる：以下番組)を用意し、児童生徒は好きな番組を選択して参加している。番組の選択に関しては、事前集約は行っておらず、当日に自由参加で行う。また、授業中の移動も自由であり、自分の興味関心のある内容を選択できるようになっている。各番組は、表1に示した名称及び基本コンセプトを持っている。

年間12回の拓北タイムを、3回ごとに1サイクルとして、年間4サイクルの学習を計画している。したがって、児童生徒は4番組×4サイクルの16個の学習内容から選択することができる。平成17年度の年間学習予定は別添の【資料1】にまとめる。

【表1】

びっくり！拓北玉手箱	あつまれ！拓北オンステージ
・身近なものを題材にしながら、観察や実験をしたり、物を作ったり、見学や調査をする活動。	・歌や劇、踊り、ダンス、ゲームなどを実際にやってみたり、発表したり演奏や劇を見たり、踊ったりする活動。
レッツゴー！拓北元気隊	はいこちら拓北社会部！
・いろいろな運動をしたり、自然に親しむ活動。	・人とのかかわりを通して、ボランティアなどの社会体験をしたり、いろいろな学校との交流や外国の文化を感じたりする活動。

## (4) 児童生徒の参加

児童生徒が自分の参加したい番組を選択するためには、学習内容の情報を入手することが前提となる。拓北タイムの前日には、CMビデオを全校放送やビデオテープで視聴している。また、校内の4ヶ所に、学習内容を記したポスターを掲示している。児童生徒は、CM放送視聴後や、登下校時にポスターを見て、担当教師と番組を決めることが多い。

## (5) 授業担当者

全教員が4番組×4サイクルの16番組のいずれかに配置され、各サイクルの学習を計画し、授業を担当している。年度当初に希望を募った上で、各番組への配置を決定し、各教員の個性や特性を十分に発揮できるようにしている。

なお、平成14年度より「拓北タイム部」が生活指導部より分離し、校務分掌として位置付けられた。分掌部員はコーディネーターとして、企画段階から各番組に入り、連絡調整や助言を行っている。

## (6) サポーター及びゲストティーチャー

児童生徒全員が、自分の希望する番組を確実に選択するためには、できるだけマンツーマンに近い支援者を必要とする。そこで、地域の人材を積極的に活用することで、児童生徒の番組選択の希望をかなえたり、興味関心のある活動を充分に行なったりすることができるようにしている。地域の方や大学生を中心に、毎回10~20名程度がサポーターとして来校し、児童生徒の学習支援を行っている。

また、地域の人材をゲストティーチャートして招くことによって、普段なかなか接することができない本物の技に触れるなど、学習内容を充実させる取り組みにも力を入れている。

## (7) 評価

本校の個別の指導計画の様式に則り、児童生徒一人一人の教育的ニーズから個別に設定した目標に対して、前期・後期の年2回評価を行っている。評価の様式から、普通学校に準ずる教育課程の児

児童生徒は記号による評価、知的障害養護学校及び自立活動を主とする教育課程の児童生徒は、記述による評価としている。評価とは別に、指導中の児童生徒の様子や教師が講じた手だて、所感など指導の経過を「指導記録」として記述し、形成的な評価に活用している。

授業については、各サイクル終了後に授業担当者が集まり、実施内容や活動の状況について評価し、そのファイルを次サイクルの担当者に引継ぎを行う。また分掌の年度末反省などで上がった反省をもとに、次年度の拓北タイムの授業作りについて改善を図っている。

## 4 研究の経過

### (1) 平成16年度の研究

#### 1) 拓北タイムの成果

拓北タイムの学習では、全教員の個性や特技を活かした番組担当者の編制、ゲストティーチャーの積極的な利用、サポーターによる充実した指導体制などにより、通常の学年や学部をベースにした授業ではなかなか行うことができない、様々な体験的な学習をダイナミックに行っている。自分なりに工夫しながら実験をしたり、ゲストティーチャーの演奏にリズムをとって聴いたりなどの姿がよく見られ、毎回児童生徒は夢中になって活動に取り組んでいる。複数の活動を希望し、いくつかの番組を渡り歩く児童生徒も数多く見られる。

3年、4年と拓北タイムの実践を積み重ねる中で、自立活動を主とする教育課程の児童生徒にも徐々にではあるが変化が見られるようになってきた。知的な発達の遅れが大きく、教師からの会話に対するやり取りが成立しにくい児童生徒の場合は難しいが、CMビデオやポスターを見て活動内容の見通しを持って番組を選択したり、実際の場面で自分のしたい活動を選んだりできる児童生徒が増えてきている。

年度当初のオリエンテーションでは、今年したい活動を、児童生徒が発表する機会を設けている。開校から3年目くらいまでは、児童生徒の意見はなかなか出ず、出てきた意見も過去にしたこ

とがある活動がほとんどであった。平成15年度あたりから、児童生徒が今まで経験したことがない活動を、自分の意見としていくつも発表するようになってきた。自分でしたい活動を選ぶことが児童生徒に定着してきて、次にしたいことのイメージが膨らみ主張できるようになりつつあると感じる。

教職員の側にもノウハウの蓄積が見られた。開校から2、3年間は、各番組、各サイクルの学習の計画に試行錯誤することが多く、計画段階で多大なエネルギーを必要としていた。しかし徐々にノウハウが蓄積され、現在では必要最小限の打合せで、番組の運営を行えるようになってきた。ゲストティーチャーについても、年度当初の計画段階で実現可能な人をあげるようになり、地域支援部に協力を依頼することが少なくなった。また、ゲストティーチャーの人材もストックされ、拓北タイム以外の授業でも活用されるようになってきている。

#### 2) 個別の指導計画の集計、分析から

上記のように、拓北タイムの学習そのものは大きな成果があげられるものの、個別の指導計画の目標設定や評価が難しいという声が教員の間から上がっていた。そこで、全校児童生徒の個別の指導計画の目標や評価を集約し、分析を行い課題を導いた。

### ア 平成16年度に明らかになった課題

- (a) 児童生徒が主体的に番組を選択していない
  - 「自立活動を主とする教育課程」の児童生徒で「選択する」目標が28.8%にとどまる。
  - 「特別活動」など他の学習と抱き合わせて目標を設定しているケースが、全体の48.3%で見られた。
- (b) 目標が具体的でないケースが多く見られた
  - 「集団参加（大きな集団で学習することに慣れるなど）」や、「経験を広げる（いろいろな活動に参加し経験を広げるなど）」の目標が学部で42%
  - 「対人面（サポーターと仲良くするなど）」の目標に終始するケースも見られた。

(c) 「普通学校に準ずる教育課程」の目標設定が不十分

- 「選択する」ととどまる児童生徒が4/6人
- 「工夫や意見などの課題解決」の目標が見られない
- ポートフォリオにも取り組めるのでは

(d) その他

- 訪問教育の児童生徒の参加
- 拓北タイム以外の総合的な学習の時間の充実（児童生徒の必要に応じて）

イ 要因

児童生徒自身が自らの意志で学習を選択し、活動中の移動も自由であるシステム上、単元や題材に準拠した具体的な目標設定が難しい点があげられる。しかし、5年間の実践で目標設定について検討してこなかったことによる各教師のとらえ方の温度差が、その要因としては大きいと考えられる。個別の指導計画を設定するにあたって、本校では学習形態を「マイタイム」、「グループタイム」、「全校タイム」と学習集団で区別し、設定してきた流れがあった。その過程で、「全校タイム」として、全校朝会、委員会活動、拓北タイムを1つにまとめて設定する傾向ができてしまった。本来児童生徒には、それぞれの学習ごとにねらいが設定されるべきである。

児童生徒の学習選択を実現するために学習支援

【表2】

① 拓北タイム（または総合的な学習）単独で、目標を設定する。
② 番組を選択するという目標を達成していない児童生徒は、全員が「番組を何らかの方法で選択する」ことを目標として設定する。
③ 「番組を選択する」、「活動に対する興味・関心」、「工夫や意見など課題解決」、「学習の振り返り」の観点の中から、1本の目標を設定する。
④ 児童生徒の状況によって、「集団参加」や「対人面」の目標が必要な場合は、③を設定した上で、サブ目標として設定する。
⑤ 普通学校に準ずる指導内容の児童生徒については、出席カードを廃止し、自己評価表をつけ、ファイリングしていく（ポートフォリオ）。
※いずれも小3以上（小1・2はお子さんの状況によって、できる部分で）
⑥ 可能な限り、訪問教育担当の児童生徒も総合的な学習を受けられるようにする。

者としてサポーターを導入しているが、その数は十分に足りていないのが現状である。そのため、特に人数の多い学年を中心に、安全確保のためという教師の都合が優先され、児童生徒に番組を選択させないケースも報告された。

3) 改善の取り組み

ア 個別の指導計画の目標の作成に関する提言

平成16年度中に職員会議で表2を要旨とする提言を行い、全校で検討した。

イ ポートフォリオの学習会

ポートフォリオの学習会を行い、ポートフォリオとはどういうものであるか、「拓北タイム」のポートフォリオの様式の説明を行った。

ウ その他

できるだけ具体的な目標を設定しやすいように、打ち合わせの時期を見直し、年間学習予定を個別の指導計画の作成前に作るようにした。児童生徒が番組選択の意思を表示しやすくするために、各学年にCMポスターをそれぞれ配布するようにした。過去の反省やノウハウを一覧にして配布し、学習の計画を立てるときの参考資料とした。

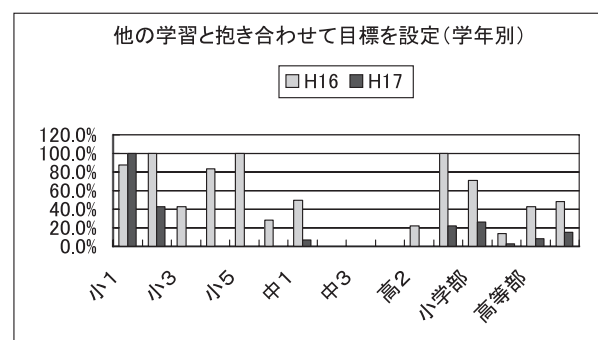
5 平成17年度の研究

(1) 個別の指導計画の目標集計・分析

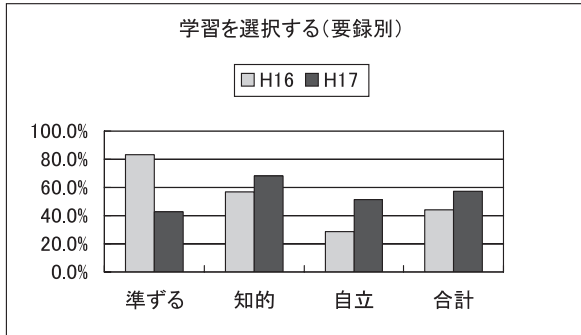
1) 総合的な学習の時間単独で目標を設定するようになった。（抱合せが48.3%→15%）

生活科として行う小1、小2を除くと、ほとんどの児童生徒で総合的な学習の時間（拓北タイム

【図1】



【図 2】



以外のものも含む) 単独で目標を設定するようになった。

## 2) 「学習を選択する」目標の増加

44.0% → 57.5% (全体)

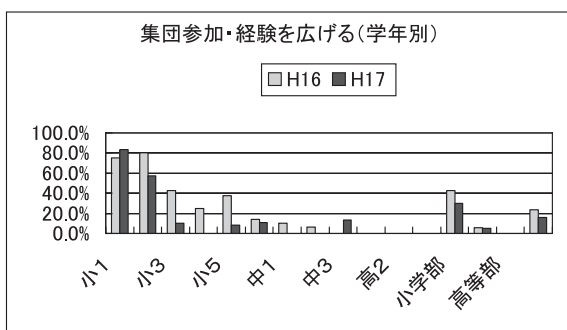
28.8% → 51.5% (自立活動を主とする)

知的障害養護学校及び自立活動を主とする教育課程の児童生徒において、「学習を選択する」目標の増加がみられた。同時に各学年に行ったアンケートでも、昨年に比べて、子どもたちにどの活動に行くのかを聞くようにしていると答えた学年が半数近くに登り、教師側の意識の向上も伺えた。また、今年度より希望した学年には、ポスターを直接配布するようにしたことも有効であった。言葉等による意思表示ができない児童生徒でも、提示された4種類のポスターを指さしたり、目線で選択することができるようになった。

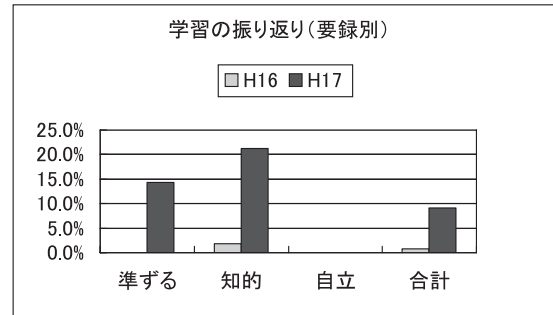
普通学校に準ずる児童生徒の中には、文言として「学習を選択して」が残っていて、「学習選択」の目標が0にはならなかったが、「自分で工夫して取り組む」などの課題解決に関する目標が主に設定されており、学習選択の目標は減少していた。

## 3) 小3以上で「集団参加」、「経験を広げる」目標の減少

【図 3】



【図 4】



生活科で「教師や友だちと一緒に〜」、「進んで集団生活に参加し」、などと学習指導要領(知的養護学校)で内容として明記されている小1・小2を除き、「大きな集団で参加することに慣れる」などの「集団参加」や、具体的な目標となりにくい「いろいろな活動に参加して経験をする」などの目標が減少した。特に小3から小5までの学年で減少が著しく、教師の意識の変化がうかがえる。

## 4) 「学習の振り返り」目標が増加

普通学校に準ずる教育課程で、目標として設定された児童生徒は少ないが、知的障害養護学校代替の児童生徒を含めて全校で11名がポートフォリオに取り組んでいる。

初めての試みであり児童生徒も慣れていないことから、今年度は「どんなことをしたのか」、「どうしてそれを選んだのか」、「わかったこと、思ったこと、工夫したこと、この次したいこと」の3項目に記入する様式を取っている。国語力や文字を書く機能の一人一人の状況に応じて学習時間を設定したり、宿題として持ち帰ったり、教師による口述筆記で行ったりしている。年度当初はしたことの記述に終始していた生徒が、継続して取り組むことによって、徐々に感想を記述するようになってきた例があった。次年度は、児童生徒によっては、自分の目標を設定したり、それに対しての自己評価を取り入れることも検討している。

この他にも、絵日記や写真つづりなどの独自の様式でポートフォリオに取り組む学年があったり、帰りの会などで拓北タイムでの活動を振り返るようになった学年がいくつか出てきており、全校的に学習を振り返ることに関心が高まりつつある。

## 5) その他

「興味関心」に関する目標の設定が減少し、その児童生徒が「意見・工夫・課題解決」の目標に移行した。しかし、「意見・工夫・課題解決」の目標を設定した児童生徒数は昨年と変化があまりなく、「意見・工夫・課題解決」を昨年の目標としていた児童生徒が「学習の振り返り」に目標をスライドしていった現象が見られた。このことは、目標の設定がより具体的なものになってきたことを示している。一人一人の目標を追跡していても、例えば昨年「興味・関心のある活動に積極的に参加することができる」という目標だったが、今年度は「CMビデオやポスターを見て、発声や表情で行きたい活動を選択し、積極的に活動することができる」と、児童生徒がどう行動したら達成したといえるのかがわかる目標が設定されるケースが増えてきている。

訪問教育では、訪問指導グループの教師全員が家庭を訪問する際に、3つの活動を用意して実際に目の前で簡単に学習内容をプレゼンをして、児童生徒にしたい活動を選ばせる取り組みを試験的に行った。全員が音楽の活動を選ぶとの担当教師の予想に反して、音楽とそれ以外の活動の半々に児童生徒の選択が分かれた。その他にスクーリング時の参加や、訪問指導の際の拓北タイムの追体験など今後も訪問指導グループとの連携を図っていきたい。

## 6 考 察

### (1) 個別の指導計画の目標設定について

平成16年度の研究で明らかになった課題について、おおむね改善がみられた。これについては、表2で示した提言により、全校教師の意識が変化してきたことが大きな要因である。特に、全校朝会や委員会活動の特別活動と総合的な学習の時間の目標を別にして設定することが徹底されたことにより、拓北タイムでの目標が具体的なものになってきた。この研究の過程で、拓北タイムでの目標が、「学習選択」、「興味関心」、「集団参加・経験の拡大」、「工夫・意見・課題解決」、「学習の振り返り」、「対人面」の6つのカテゴリーに整理

されたことも、有効であった。

目標が具体的になってきたことで、評価についても変化がみられるようになった。過去の評価では、「～のときには、～していました。」とエピソードの記述にとどまり、指導記録との整合性がとれないものも多く見られたが、これらが少なくなり評価として成立するものが増えてきた。

また、この研究を通してポートフォリオにも取り組むようになり、全校的に学習の振り返りが意識されるようになった。今年度は手始めに、学習の感想をまとめるところからスタートしたが、本来ポートフォリオは自己評価や授業評価につながるものである。実践を積み重ねる中で、児童生徒の学習の振り返りの力の向上にあわせて、自己評価や授業評価の要素も徐々に取り入れていきたいと考えている。さらに、ポートフォリオによる学習の振り返りについては、総合的な学習の時間だけでなく、他の教科などにも広がっていくことを期待している。

これらの成果については、教師一人一人の意識によるものであり、年月が経つと徐々にあいまいになることが予想される。分掌を中心に、常に全校に呼びかけていくことが必要である。

### (2) 重複障害児の総合的な学習の時間のあり方

重複障害のある児童生徒の総合的な学習の時間について、拓北タイムのような全校一斉に行う形の他に、学部や学年毎に行う方法、類型別に行う方法、一人一人の総合的な学習の時間を設ける方法などいろいろな方法が考えられる。

本校では児童生徒一人一人に応じたマイタイムやグループタイムを個別の指導計画に基づいて取り組んでいるからこそ、このような形の総合的な学習の時間が有効的である。拓北タイムを全校一斉に行う最大のメリットは、良い意味での「非日常性」である。「普段より大きな集団で」、「サポーターやゲストティーチャーなど、人との関わりの広がり」など、この時間が子どもたちの「晴れの場」となる可能性を持っているものである。

この学習を継続して行っていくことは、卒業後の児童生徒の姿と大きく関連している。拓北タイムの実践を本校で始めたとき「様々なサービスが

ある中、自分のしたいものを選択、意思表示できる子ども」になってほしいという願いからこの学習を計画してきたが、その他にも「様々な人と関わることを楽しみにする」や「地域社会の行事に関わっていく」などの子どもの姿につながっている。卒業後の重度重複障害児にとって「地域の力＝大きな財産」となり、「地域との結びつきがより濃くでてくる」のが総合的な学習の時間である。

### (3) 教科や自立活動との関連

拓北タイムは、各教科や自立活動などとも密接に関連している。普段の学習が基盤としてあり、それを総合的な学習の時間の中で行うことで、さらに普段の学習にフィードバックされることが、総合的な学習の時間のあり方として重要である。児童生徒の側だけでなく教師の側からも、教科や教科・領域を合わせた指導、自立活動と総合的な学習の時間の専門性を関連させることによって、児童生徒の「生きる力」がより高まると考えられる。そこには、私たち自身の教師としての資質、専門性、ひいては生き方や人生観が強く問われているのである。

### (4) 課 題

#### 1) 詳細な全体計画の必要性

全体計画、年間計画をごく簡単なものにしてきたが、全体計画の粗さを指摘された。そこで、今回の研究で取り組んだ個別の指導計画の目標を踏まえた全体計画を作成した。内容系列表に関しては、全校一斉に行うというシステムや、目標や評価は個別の指導計画に集約してシンプルなものにするという本校の個別の指導計画の考え方にに基づき、学部ごとにまとめる形はとらず、児童生徒の発達段階に応じたものとした。個別の指導計画の目標設定に関しては、内容系列表に示した観点から選び、一人一人の児童生徒の状況に応じた目標を設定していくというものとする。まだ、全体的に煮詰めきれていない部分が多いため、次年度以降実際に使いながら修正を加えていきたい。

#### 2) 授業の発展性

準備しすぎて、児童生徒がそれをこなすだけになっているのではとの指摘がある。拓北タイムを始めた当初はいろいろなものを用意して児童生徒にしてもらって考えようという、荒削りではあるが子どもたちの創意工夫につながる授業もあった。しかし様々なノウハウが集積されてくると、徐々に無難な授業になってきた傾向がみられた。そのため「とにかく体験的な活動をする」とのみに目が奪われ、児童生徒が創意工夫する場が狭くなってきた。どうやって児童生徒の創意や工夫をさせるか、意見を反映させるかを、今後の課題

【資料1】平成17年度 年間学習予定

	びっくり！拓北玉手箱	あつまれ！拓北オンステージ	レッツゴー！拓北元気隊	はい こちら拓北社会部！
I 6/8 6/22 7/13	「つくって遊ぼう」 ・風と遊ぼう（風車やたこ作り） ・お花でそめよう（タンポポそめ） ・とばして遊ぼう（割りばし飛行機）	「うたとおはなし」 ・よく音楽で歌う歌 ・小さなコンサート	「水で遊ぼう！」 ・中庭で思いっきり水遊び。体育館でも足湯などを用意する。	「職人の技に挑戦」 ・おまんじゅう作り ・パン作り ・お茶をしよう
II 8/24 9/7 10/5	「食の文化を体験しよう」 ・中国～ぎょうざ作り ・日本（大阪）～たこ焼き作り ・洋食～クッキー作り	「じ・ま・ん」 ・三味線（長寿会） ・タンゴ ・夏ののど自慢	「拓リンピック」 ・肢体連やそれ以外の種目に挑戦。新記録をねらえ！会場はグラウンドと体育館。	「郵便の仕事」 ・絵はがき・見学・オリジナルの切手・実際にはがきをだす。
III 10/19 11/30 12/14	「卵の不思議」 ・卵を使った調理活動（プリン作りなど） ・卵を使った理科学的実験	「ようこそ風音コンサート」 ・歌のコーナー ・楽器によるコンサート ・ゴスペル	「グロススポーツ」 ・ゴロ野球（ファイターズ！） ・ゴロサッカー（コンサドーレ） ・ゴロ卓球・パッドゴルフ	「おしゃれをしよう」 ・床屋さんに髪をセットしてもらおう ・化粧をしてみよう ・アクセサリーを作ろう
IV 1/25 2/8 2/22	「冷やして固めよう」 ・チョコレート作り ・キャンドル作り	「うれしい・たのしい・おもしろい」 ・1年間を思い出すような歌をうたう。	「氷であそぼう」 ・雪や氷を使って元気に遊ぼう ・ジャンボ神経すいじゃく	「世界と交流を」 ・英語圏 ・中国・韓国 ・STVアナウンサーと交流

として全教職員で考えていきたい。

授業の発展性ということでは、拓北タイムで興味関心を持ったことを、マイタイムやグループタイムなどの学習の中でいかに深めていくかということも重要である。拓北タイムでしたことを、時間をかけてより発展させて学習をしていったり、場合によっては拓北タイムとは別の内容の総合的な学習に取り組んだりすることが、個々の児童生徒の状況やニーズによっては必要である。教科学習を行っているの児童生徒の一部でインターシップや、調べ学習などを行っていたり、過去には拓北タイムで行った他の養護学校とのメールによる交流を、本人の希望でその後も継続して行ったりした例がある。しかし、そのような取り組みは数が少ないこと、必要とする児童生徒が少数であることから体系的に取り組めず、担当教師まかせになっていることが現状である。分掌として、実践事例の紹介や、授業作りのアドバイスなどを行い、教職員の意識を高めていくことが今後の課題である。

### 3) サポーターの育成

ときには30名程度のサポーターが来校することがある。初めて障害のある児童生徒と接するサポーターも多く、サポーターと児童生徒の両方が戸惑いを感じる 경우가よくある。サポーターと一緒に活動する子どもの様子を、担任（本校では担当）が予測して、必要最低限のアドバイスをすることとともに、サポーターの受け入れ窓口の地域支援部と連携をとって、サポーターへのレクチャー方法を検討していくことが今後の課題として考える。

## 7 まとめ

この研究を通じて、総合的な学習の時間としての「拓北タイム」の改善をすすめるとともに、次年度以降の課題も明らかになった。この課題についても、今後分掌を中心に学校全体として具体的な改善策を検討し、拓北タイムのさらなる充実に努めていきたい。

さらに、「総合的な学習とは何か。」をあらためて考え直すよい機会になった。教科や教科・領域を合せた指導、自立活動と総合的な学習が相互に関連することによって、児童生徒の「生きる力」が向上していくこと、そして教師の専門性や人生観などが問われていることが明らかになった。地域との関わりの中で、児童生徒の将来の姿を豊かにすることにつながるような実践を、今後も取り組んでいきたい。

### (参考文献)

- ・プロジェクト研究報告書(平成13年度～15年度) 21世紀の教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究 独立行政法人 国立特殊教育総合研究所
- ・肢体不自由教育実践講座 全国肢体不自由養護学校長会編著 ジアース教育新社
- ・新たな肢体不自由教育実践講座 全国肢体不自由養護学校長会編著 ジアース教育新社
- ・総合学習に活かすポートフォリオ評価の実際 加藤幸次編著 金子書房
- ・肢体不自由教育 153号・159号 社会福祉法人 日本肢体不自由児協会
- ・筑波大学附属桐ヶ丘養護学校 研究紀要第40巻



【資料2】北海道拓北養護学校 「総合的な学習の時間」 全体計画

【拓北タイム】※小学1、2年生は生活科として取り扱う

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>重複障害を併せ持つ児童生徒が95%（自立活動を主とする教育課程の児童生徒が55%）という本校の状況から、学習指導要領の「総合的な学習」のねらいを、次のように置き換えて目標とする。</li> <li>興味・関心のある活動を主体的に選び、楽しんで参加することができる。</li> <li>問題意識を持って、考えたりしながら活動に取り組む。</li> </ul>
育てたい力	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の興味・関心から発した様々な体験的な活動を用意し、それを児童生徒が自ら選択して取り組むことによって、以下の力を育てていきたい。これらの力が高まることによって、様々な福祉サービスの中から自分の必要とするものを選び出し、自己実現を可能にしていく児童生徒の将来の姿につなげていくと考える。</li> <li>事前に入手した情報をもとに、主体的に活動を選択する力。</li> <li>「なんだろう」、「してみたい」、「おもしろそうだな」と感じ、それをもとに意欲的に活動に取り組む力。</li> <li>身近なことに興味を持ったり、課題を見つけて自ら解決しようとする力。</li> <li>様々な友だち、教師、地域の人と関わり、一緒に活動に取り組む力。</li> </ul>

内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校一斉に取り組む、水曜日の2、3校時に年1・2回行う。1・2回を3回ずつ4サイクルに分け、それぞれテーマを設けて学習を予定する。</li> <li>「実験や観察、製作」、「音楽や劇、読み聞かせ」、「体育、自然体験」、「社会体験、国際交流」などをコンセプトとした4つの活動（番組と呼ぶ）を用意し、児童生徒が自ら活動を選択する。</li> <li>活動の選択に当たっては、事前の集約などを行わず、授業中の移動も自由とする。</li> <li>自己選択のための情報として、CMビデオを視聴したり、校内に掲示されたポスターを見たりする。</li> </ul>
特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの意見を集約し（年度当初のオリエンテーション）、そこから発想する授業作り。</li> <li>児童生徒一人一人の学習選択を支援するための、サポーター（地域の学習支援者）の導入。</li> <li>本物の学習を児童生徒に教えてくれるゲストティーチャーの積極的な活用。</li> <li>理科や音楽、体育、技術家庭等の各教科や自立活動などと相互に関連した学習内容。</li> <li>全校児童生徒の統制力という集団の大きさを活かした授業作り。</li> <li>全校の教職員で授業を担当することによって、パラエティに富む学習内容。それを支える校務分掌「拓北タイム部」。</li> </ul>

内容系列表（代表的な例）

観点	目標（発達段階→）		
集団参加・経験の拡大 ※小1・2(生活科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな集団で参加することに慣れる。</li> <li>大きな集団での活動を好み、積極的に参加する。</li> <li>教師と一緒に様々な活動に取り組む、経験の幅を広げる。</li> </ul>		
学習選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際にいくつもの番組に行っ</li> <li>て参加し、その活動が快か深</li> <li>いかを表現する。</li> <li>実際にいくつもの番組に行っ</li> <li>て参加する中で、興味のある</li> <li>活動を見つめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CMビデオやポスターを見て、したい活動を動作</li> <li>や言葉で表現する。</li> <li>実際に自分の興味ある活動にいくつか回ってみ</li> <li>て、したい活動を決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CMビデオやポスターを見て、活動内容の見通し</li> <li>をしっかりと持って、番組を選択する。</li> </ul>
興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容に興味・関心を示して、自分から手を</li> <li>伸ばすなど積極的に活動しようとする。</li> <li>活動内容に興味・関心を示して、教師の説明や</li> <li>手順をよく聞いて活動しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容に興味・関心を示して、自分から手を</li> <li>伸ばすなど積極的に活動しようとする。</li> <li>活動内容に興味・関心を示して、教師の説明や</li> <li>手順をよく聞いて活動しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容に興味・関心を示して、教師の説明を取</li> <li>りよく聞き、手順・活動方法を理解して活動に取</li> <li>りくむ。</li> </ul>
工夫・意見・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の際にいくつもの選択肢の中</li> <li>から自分の好きなものを選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どうやったら上手くできるか、自分で創意工夫しながら活動に取り組む。</li> <li>どうしたらいいのかわからない活動をしたいと、積極的に意見を述べる。</li> <li>自分で課題解決の方法を考え、見つける。</li> </ul>	
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の問いかけに応じて、楽しかったことを動作で示す。</li> <li>楽しかった活動を思い出し、自分の言葉で表現する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を振り返り、わかったことや感想をポートフォリオにまとめる。</li> <li>自分の目標を設定して評価したり、次の活動の課題を見つめる。</li> </ul>
対人面	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の学年の友だちや教師、サポーターとなかよく活動する。</li> <li>サポーターに自分の気持ちや要求を伝え、一緒に活動する。</li> </ul>		

【その他】

- 個々の児童生徒のニーズによっては、拓北タイムとは別に総合的な学習の時間を設定したり、拓北タイムの内容をマイタイムやグループタイムで発展させて取り組んだりする。（平成17年の取り組み：小5・6～水に関する調べ学習、中1～校外学習の調べ学習、中2～インターンシップ、NHK放送体験クラブによる番組制作）
- 高等部に関しては、卒業後の余暇活動に関連する活動（同好会）も、総合的な学習の時間として取り組む。